

ひの
ひの

議会だより

No. 110

平成28年7月

発行/鳥取県日野町議会

6月定例会 主な内容

- ・28年度補正予算・条例 …… p2～3
- ・議会傍聴の感想 …… p4
- ・一般質問(4人) …… p6～9
- ・委員会活動報告 …… p10～11
- ・特集コーナー …… p12

防災意識の向上を

日野中学校の避難訓練が6月18日行われ、日野町消防団は、日頃の訓練の様子を披露し啓発を。生徒は放水体験をするなど、防災意識の向上に取り組みました。

(裏表紙に関連記事があります。)

平成28年 第4回議会定例会

一般会計補正予算 572万9千円を追加し 予算総額32億1545万2千円に

第四回議会定例会は、6月13日～17日までの5日間にわたり開会されました。補正予算、条例等の一部改正、財産の取得、農業委員会委員、教育委員会委員の任命など提案された16議案を、原案のとおり承認又は可決し、意見書一件を採択して閉会しました。

歳入の主なもの

・ 県支出金 105万円
・ 繰入金 293万円
・ 諸収入 171万3千円

歳出の主なもの

・ 熊本地震の被災地へ応援派遣職員にかかる費用及び熊本県町村会への見舞金 32万8千円
・ 根雨駅前公衆トイレ整備にかかる設計委託料 151万2千円
・ 幼保小連携推進モデル事業 60万円
・ 小学校理科教育授業力向上事業 50万円
・ ソフトテニス講習会 13万9千円
・ 退職消防団員報償金 171万3千円
・ 給食センター擁壁修繕 63万2千円

特別会計

日野町国民健康保険

126万8千円を追加し、予算総額を4億4911万9千円に

歳入
国庫支出金 54万5千円
繰入金 72万3千円

歳出
電算処理委託料



町によりトイレが整備される根雨駅前

日野町介護保険

34万8千円を追加し、予算総額を6億5433万1千円に

歳入
国庫支出金 13万5千円
県支出金 6万7千円
繰入金 14万6千円

歳出
地域支援事業借上料 34万8千円

日野町公共下水道事業

6万8千円を減額、予算総額を1億1045万円に

歳入
繰入金 6万8千円減額

歳出
総務費 6万8千円減額
施設管理費は財源の振替

採決の状況

提案された補正予算は一般会計、特別会計とも全て全員一致で可決

財産(動産)の取得について

地方自治法並びに町条例に基づき議会の議決を求めらるるもの。

・ 中型バス一台 1277万9千円
・ 日野中学校タブレット、電子黒板等 849万9千円

税条例の一部改正

町民税の見直し

①法人税制の税率及び制限税率が見直されました。

②自主服薬推進のための医療費控除の特例の創設

適切な健康管理の下で医療用医薬品から代替えを進めるため、検診・予防接種等を受けている個人を対象に、自主服薬推進のための

固定資産税の見直し

所得控除制度(医療費控除の控除額計算上の特例措置)を導入。

・ わがまち特例

再生可能エネルギー発電設備を対象に固定資産税の課税標準額の軽減を行う。

国民健康保険条例の見直し及び内容

○課税限度額の引き上げ

基礎分限度額を2万円引き上げ54万円に、後期高齢者支援金分の限度額を2万円引き上げ19万円に。

○低所得者に対する軽減措置(均等割、平等割)の対象となる世帯の軽減判定所得の拡大

平成28年4月1日施行

日野町上下水道事業運営審議会条例の一部改正について

○審議会の庶務を産業振興課から建設水道課に変更。
平成28年4月1日施行

採決の状況

提案された議案は、いずれも全員一致で可決

教育委員会委員の任命

日野町教育委員の任期満了に伴い任命に同意しました。

景山 美由紀(黒坂・再任)
任期は、平成28年8月1日から平成32年7月31日まで

採決の状況

全員一致で可決

農業委員会委員の任命

農業委員会等に関する法律の改正に伴い、日野町農業委員会委員の選挙による委員の定数条例を廃止し、新たに制定された日野町農業委員会委員の農業委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例が制定され、この度の改選から適用されました。

同意された新委員の皆さん
高田 昭徳(下黒坂)
松本 洋一(根雨)
山吹 長年(舟場)
頭本 佳苗(中萱)
長住 武美(高尾)
任期は、平成28年6月19日から平成31年6月18日まで

採決の状況

賛成多数で可決

答弁 法律には募集と書いてあるが、小さな自治体で選定の条件が決められている中で募集ということは、選択肢が限られ、地域要件・経営規模等を考慮して三人の方を決め、募集はあえて行わなかった。

反対討論 この提案議案は、手続きの上で不備があると考えるので反対とします。



ジェネリックも普及が進んできました。





議会傍聴者の感想

6月定例会の一般質問の日には13人の皆さんが傍聴に来てくださいました。そのうち2人の方から、意見・感想をいただきました。

傍聴者Aさん

● 議会は議員（住民の代表）と町がお互いに律しあう関係性が大切だと思う。（一般質問には）大事な視点が沢山出ていました。課題に対して、だれがどう動くか見えづらいし、解決していくスピード感がもう少しあればと感じた。

● やはり、今の時代ホームページなど情報発信力は重

要な戦略の一つ。ホームページの更新がタイムリーにされていないのは事実です。

● 防災会議に女性が入っていないようです。防災計画を女性の視点から点検してみたい。

● リバーサイドひのが住民に愛される施設になるために、経営診断報告書の住民公開、パブリックコメント等求められましたか？（自分が知らないだけかもしれませんが）いろいろな情報をもっと住民に発信いただけたら良いと思います。

● 議員の皆様、今後も住民の意見を反映できる活発な議会運営をよろしくお願いいたします。

● とても良い勉強になりました。時間があればまた傍聴に来ます。

傍聴者Bさん

● サンプラ、リバーサイド、日々の暮らし、など気になるテーマが沢山で、出かけてみました。

● サンプラ・・・皆でつくりあげ、利用するしかないですね。

● リバーサイド・・・地元の人々が愛していない感がある。もっと自信をもって町外、県外のお客様にお勧めできるよう、まず住民が利用するのが楽しいようになるような経営をしてほしい。つまり料理です。

私はお客さんの側なので「ほしい」ですみません。



議場（手前が議長・執行部、1番奥が傍聴席）

● 4月の（熊本）の震災。他人事ではないのでつらいです。我が家は防災無線が入りづらく、他の世帯もそうではないかと思うので、どなたか動いていただき議題に取り上げてください。

（議会より・・・防災無線については早速対応しました。何ごともお困りの事がありましたらどうぞ遠慮なく申し出て下さい。）

平成28年度全国町村議会

議長・副議長研修会

「これからの町村議会を考える」

5月30日・31日の日程で、全国町村議会議長会主催の正副議長研修会が東京で行われ、議長と副議長が出席しました。



今後の政局を語る講師

一日目は、最初に山梨学院大学法学部の江藤俊昭教授による「地方議会の役割と改革の行方・住民自治の根幹をなす議会の作動」と題しての講演を聞きまし

た。江藤講師のお話で感じたことは、いろいろとありましたが、その中で、自治法九十六条の「議決権」の話でした。議決責任の再確認、議員間討議の重要性など心に残り、改めて議員としての判断・行動を考えさせられた講演でした。

つぎに町村議会特別表彰を受賞された、神奈川県大磯町議会の「わが町の議会活性化への取り組み」と、長野県飯綱町議会の「議会力を向上させ町長と切磋琢磨する議会へ」のふたつの町の取り組みの発表がありました。

大磯町議会議長の発表では、議会報告会の開催「年2回」、予算・決算と議員研修及び政策研修の充実などの話しが印象として残りました。飯綱町議会は、議会改革の持続的・継続的な実践の重要性と議員力向上にむけた学習会（年7回から8回）による議会力の向上など、参考となること

が多くありました。

二日目は、フリーキャスターで事業創造大学客員教授の伊藤聡子さんによる「地域経済の活性化が日本の元気を取り戻す」とのテーマで講演があり、現在各地で行われている事例の紹介がありました。

ひとつは、山形ガールズ農場のお話で、東京、新宿でヤングギャルをしていた若い女性が、山形で農業を営み、そこで育てた野菜を東京で販売し、地域の活性化を図っている。また、都会のフリーターのカップルが、瀬戸内の島に移住し就業活動を行い、レモン栽培に取り組み、生産したレモンでレモン酒を製造し、好調な売れ行きで島に活気をもたらしたことなど、日本の田舎が元気になった事例は数多くあるとのことでした。

何事もあきらめずに挑戦することが大切であると感じました。

最後に、読売新聞特別編集委員の橋本五郎さんによる「今後の政局、政治を読む」と題しての講演があり消費税、安保法、18歳選挙権について持論を話されました。持ち時間を大幅に超過して話されたのは、橋本さんのふる里、秋田の話で、今は亡き母への想い、そして、自分自身が出来るか考えた時、橋本さんは自分が持っている二万冊の本を贈り、旧小学校の校舎を図書館として活用し、地域の方々に大変喜ばれているという、すばらしいお話しに感動させられました。

今回の研修会で勉強させていただいた事を、日野町議会全体で共有し、今後の活動に活かし、町民の、さらなる福祉の向上に資するよう努めていきたいと思

副議長 中原 信男記



松本 利秋議員

要支援者避難施設は万全か

答 可能なところから整備を

議員 災害が全国各地で発生しています。2ヶ月前には熊本地震が発生し、一時は20万もの人が避難生活を余儀なくされました。避難生活で出てきたのが、要支援者への対策です。この教訓を活かし、本町の防災体制を今一度点検してみる必要があると思います。そこで、要支援者非難の施設を整備する考えは。

町長 本町は、大規模災害

発生時の「福祉避難所」として、山村開発センター、公民館、そして老人福祉センターの3施設を想定しています。

議員 要支援者の立場に立った公共施設の整備は、災害時のみならず、普段の暮らしにおいても欠かせないものです。本町の「福祉避難所」をみますと便所、風呂（シャワー）など、不十分です。



欠かせない多目的トイレ

町長 ご指摘のありました点については、可能なところから整備していかなければと思っています。

議員 支え愛活動事業は、自治会の防災意識と助け合いの高揚に効果があったと思います。未実施の自治会への働きかけと事業の継続は。

町長 この事業は①支え愛マップの作成、②平時の見守りの構築、③個別避難訓



避難訓練

練の実施などを目的に10万円を助成するものです。

5年間で20自治会が取り組まれており、自主的にやっていたらいい。よい事業であり、次年度以降は何か考えるべきかと思えます。

議員 今年度、これから取り組もうとされる自治会があれば、対応されますか。

町長 要望が出れば、補正で対応させていただきます。

たたら文化の活用は

答 日本遺産・世界遺産を目指した地域と連携模索



安達 幸博議員



都合山たたら遺跡1/200のジネラマ模型

議員 地方創生加速化交付金を活用した都合山たたらは整備は、不採択となったが、その後の整備の考えをお聞きします。

町長 町が取組める範囲で事業計画を見直し加速化交付金2次募集に申請します。

議員 本町とたたら顕彰会との連携協議会や日野郡三町でたたら文化活用の連携の考えをお聞きします。

町長 たたら顕彰会との連携は不可欠です。日野郡三町で、日本遺産への取組みを検討し、鳥取県にも働きかけを強めたいと思います。

日本遺産の認定を受けられた、鳥根県「鉄の道文化圏推進協議会」は、今後、世界遺産登録を目指し活動されます。奥日野たたら文化地域として連携を探りたいと考えます。



津地大谷山間伐作業

町有林の管理は

議員 町有林の現況、境界、面積、立木、材積、種類、林齢を尋ねます。

町長 町有林は、津地、金持、三土など16箇所です。森林簿、森林基本図から位置や面積、林齢40から50年の杉、ひのきなど、およその把握をしています。

議員 町有財産ですから森

林簿だけでなく、職員が現地確認の上、管理、伝承が必要ではありませんか。

町長 間伐事業を実施した津地町有林は、町職員が森林組合職員と現地確認をしています。施業を実施していません。施業を現地の状況が把握できていません。

今の職員人数ではできませんし、今後担当職員の設置は考えていません。



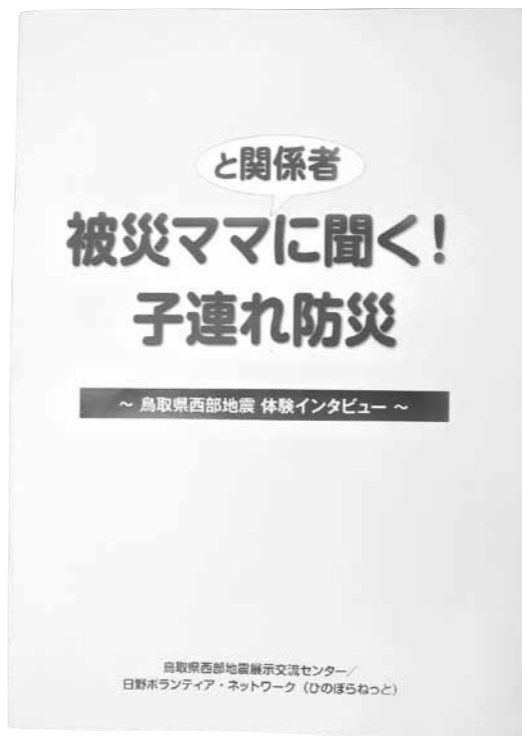
松尾 信孝議員

災害ボランティアの受入体制は

答 社協が担うと理解

議員 災害は忘れたころにやってきました。鳥取県西部地震から16年、教訓を生かした防災基本計画は実情に合わせて定期的な見直が必要です。
駆け付けてくれたボランティアを、迅速に必要な場所に配置するためのセンターを、スムーズに立ち上げる体制は万全でしょうか。

議員 被災者、とりわけ特別な対応が必要な要援護者の把握と、例えば外国語、ペット同伴、医療・投薬、など多岐にわたるニーズへの対応策は万全でしょうか。
町長 要援護者の名簿は作成しました。必要なニーズへの対応は社協、自治会、日野ぼら等で体制の整備がなされていると認識しております。



子連れママ用の防災パンフもあります。

議員 答弁を聞いてみると、外部任せの印象は否めない。現状で社協は期待を担う体制であると思えますか。

町長 当然その考えで体制を組んでいるものと理解しています。

来年以降のリバーサイド

議員 来年3月に現在の指

定管理契約が終結することに対して、早めの対応が必要であると思えます。

町長 町民にとって非常に大切な施設です。運営が途切れる事のないよう検討しています。何よりもまず、町民の皆さんが使っていたことが一番重要です。



日野町民にとって大切なリバーサイド

広域消防の体制の充実を

答 効果的・効率的な組織体制で



佐々木 求議員



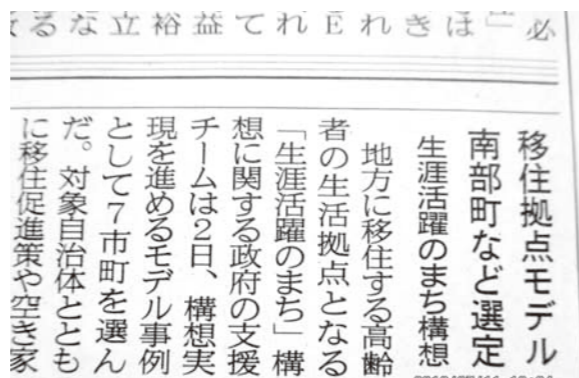
西部地区大会 小型ポンプ操法の様子

議員 広域消防の体制の充実、人口減・高齢化の急速な進展の中、地域の安全・安心にとり要の問題です。
複数の事故や災害が起き

れば今の体制では不十分ではないですか。検討、対応する必要があると思えます。
町長 再任制度を活用して人材育成、女性が活躍でき

る組織体制の整備、計画的な施設整備が必要です。構成町として有効な財源確保にも務める。

議員 大都市からの元気な高齢者の移住計画が地方の活性化、都会の医療、介護不足を解消するものとして、多額の交付金が投入されて、拠点モデル全国7か所で、一か所は南部町で始まりま



生涯活躍のまち構想で移住促進策や空き家の活用方法も検討するとし、有効な取り組みはほかの自治体にも広げるとしています。
交付税を使いながら、自治体に格差をもたらさず、町村がこれまで必死に積み上げたものが場合によっては一気にバランスを失うことになりかねないが。

町長 首都圏の介護施設が不足するから、高齢者を縁もゆかりもない地方に移住させるといふ考え方は到底

受け入れられないが、町出身の方が退職後に故郷に帰って来られる場合は大歓迎です。

十年後の医療費や介護費、それ以外の高齢者支援のための費用などが急騰することとは容易に想像が付き、結果として財政を圧迫することとなる不安があります。

総務経済常任委員会 活動報告

江府町・道の駅「奥大山」と 農地荒廃防止対策について視察



5月27日江府町、道の駅「奥大山」施設整備までの経過と管理運営・協力体制について。農地荒廃防止対策の取組み状況について、行政調査を行いました。

◆道の駅「奥大山」

地域の恵みの提供、賑わいの創出、情報発信と圏域連携、地方創生による地域活性化の場所として設置され、

- ◆総事業費 2億8100万円
- ◆(鳥取県負担) 1億7500万円
- ◆(町負担) 1億600万円

◆設備概要

休憩施設、情報コーナー、農産品特産品販売施設、レストラン、直売所みちくさ館があり商工会会員を中心に(株)奥大山ドリームを創立、行政と協議を重ね平成27年4月開設されました。道の駅利用目標と期待値、物販、レストラン部門、初年度7千百万円、3年後8千6百万円、5年後1億4百万円、みちくさ直売部門、初年度2千3百万円、3年後2千9百万円、5年後3千百万円を目標値にしております。

◆管理運営体制

町は支援、育成、協働を江府町道の駅連絡協議会のもとに、(株)奥大山ドリームに物産館マルシェ、みちくさ推進会議に直売所みちくさ館を指定管理契約を締結されています。

◆販売施設

地元圏域の物産の提供、大山おこわ、有機野菜、山菜、鮎、イワナ。

◆情報発信

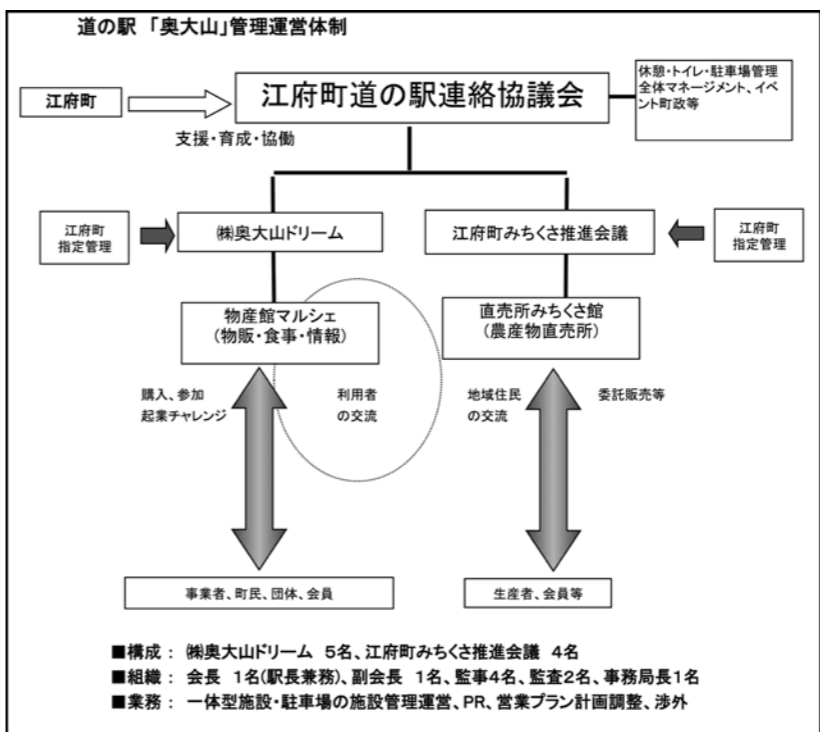
地域の観光、イベント案内、主要道路の緊急時の情報提供。

◆飲食施設

地元名物奥大山御膳、黒ぼくねぎらーめん、こんにやく田楽等。

この道の駅を拠点として賑わいの創出、地域活性化に努めたいと意気込みを感じられました。

総務経済常任委員会
委員長 中原 明記



遊休農地の荒廃防止対策の 取り組み状況

江府町は、大山山麓による広大な農地もあり、農業従業者も専業農家数

昭和60年	92戸
平成22年	112戸
・経営耕地規模別農家戸数	
0.5ha以下	311戸
昭和60年度	196戸
平成22年度	3戸
5.0ha以上	0戸
昭和60年度	0戸
平成22年度	3戸

しかし、江府町に於いても有休農地の実態把握に努められ、その結果

- ・田畑耕作面積776.7ha(台帳面積)のうち
- A分類の再生利用が可能な荒廃農地 21.2ha(2.7%)
- B分類の再生利用が困難と見込まれる荒廃農地が 122.9ha(15.8%)

と耕作放棄地が一段と進んでいる状況にあり、町の基幹産業である農業が高齢化

や担い手不足により衰退が危惧され、課題解消のため新規就農者の確保、担い手農家の育成、集落営農の推進の課題に目標を掲げ支援を行います。

道の駅設置による地場産品の奨励、雇用、賑わいの創出等、相乗効果が活かされ今後の経営努力に期待し活用したいです。

遊休農地荒廃防止対策は緊急な課題であり、年次計画を掲げ推進策を参考に、本町にも生かしたいです。

総務経済常任委員会
委員長 中原 明記



目 標	平成26年度	平成31年度	備 考
新規就農者確保	0名	10名	認定就農者
担い手農家育成	16名	26名	認定者25経営体
集落営農推進	5組織	10組織	



特集 行動

がんばっている人・団体を、シリーズで紹介しています。

訓練で知識や技術を磨く

―日野町消防団―

日野町消防団は、4月より、新たに団長となった廣川光保団長をはじめ、60名の団員による新体制でスタートしました。近年団員数が減少し、年齢も高齢化が進んでいましたが、昨年今

年と若い団員が入団し、少しずつですが活気が出てきました。

さて、消防団には、「消防ポンプ操法大会」というものがあります。

全国をめざす団員たち



消防ポンプ操法とは、火災消火を想定した消防ポンプの操作や、消火のための動作の基本的な訓練で、操法大会では、それらの操作・動作の正確さや敏しように性を競います。

訓練のための競技なので、実際の火災現場では同じようにいかない面もありませんが、訓練で得た技術や知識、大会で得た緊

張感等の経験値は、消防団員の財産となり、いざという時には必ず役に立つはず

です。消防ポンプ操法大会には、ポンプ車操法（消防自動車）の部と小型ポンプ操法の部があります。

日野町消防団は第一分団が先日開催された西部地区大会で、小型ポンプ操法の部で2位に入賞し、6年ぶりに県大会への出場が決まりました。

過去には先輩方が全国大会準優勝（小型ポンプの部）の成績を残しており、最近では7年前に、全国大会に小型ポンプの部で出場し、入賞を収めています。

上をめざし猛訓練

大会は4年に1度だけ、全国大会へと続きます。そして今年も小型ポンプの部で全国へと続く年です。訓練にも自然と力が入ります。

全国大会へ出場するには、県大会で優勝を収めなければなりません。



夜遅くまで実施される訓練

久しぶりに出場する県大会の場で優勝する事は至難の業ですが、出場するからには上を目指します。

日野町消防団の名に恥じぬよう、団員一丸となって、7月3日の県大会では良い成績が残せるようがんばります。

最後になりますが、日野町消防団の活動に、町民の皆さんのご理解とご協力をよろしく願います。

（6月27日記）

（第一分団）

分団長 西村和宏

（追記）

7月3日に開催された県大会で日野町第一分団は出場11チーム中7位と健闘しました。

あとがき

今年も、例年よりやや早く梅雨入りし、梅雨半ばとなりましたが、日々の気温の変動も大きく、体調の管理には気をつけていただきたいと思います。

私たち議員も、昨年の四月に町民の皆様へ審判を受け、議席をいただいてから一年が過ぎました。議員一人ひとりが町民の皆様と議会を身近に感じていただき、親しみやすい議会にと日々の活動を通して、ご理解いただけるように努めています。

また、議会広報委員会も、議会定例会後、早々に「議会だより」の編集に取り組み、読みやすい誌面にと奮闘しています。

皆様のご意見などお寄せいただければと思います。

（山形 克彦記）

議会広報常任委員会

- 委員長 佐々木 求
- 副委員長 松尾 信孝
- 松本 利秋
- 中原 信男
- 金川 守仁
- 山形 克彦